

第7回 南部地区街づくり協議会 議事録（要旨）

1. 開会あいさつ（並河市長）

今年には地方創生元年として国の動きも出てきており、地方創生の戦略をしっかりと立てていくことが今後の市の発展にとって非常に重要になっている。街づくり協議会で先行的に地域資源の掘り起こしや他地域とのつながりをご議論いただけてきたことが、今、我々にとってのアドバンテージとなっている。

地方創生の交付金を活用して、天理全体のPR戦略を立てていこうと構想している。様々なものづくりや歴史・文化資産をどのような形で発信していけば良いかについて、コンペで事業者の方々から提案を受け、本日お越しの満場一致でデザイナー集団デコラティブモードナンバーズリーにお願いする運びとなった。

あくまで提案なので、今後、協議会の皆様とも議論しながら形になっていく。天理の資源や強み・もっとPRすべき部分についてストーリー性を持って進めていく。

2. 事務局連絡（前回協議会議事録の確認、委員報告事項）

3. ブランディング・PR戦略の構築支援事業者の紹介、事業者より天理ブランド構築支援業務委託提案書により説明

< graf 服部 氏 >

- ・18年前に大阪でデザイン事務所 graf を設立。ブランディング・設計・グラフィックデザインが専門。近年は地域ブランディングに興味を持っており、滋賀県のブランディングや行政との仕事も手掛けている。

< 柳本倶楽部 北口 氏 >

- ・広告のプランニングが専門。大阪で一般社団法人を設立し、民間が主体となって大阪を元気にする活動として様々なイベントの企画や実施を行っている。

4. 議 事

(1) ブランディングについて

【以下、委員の発言要旨】

- ・今回のブランディングの大きな要素は、ブランディング戦略を作成することとトレイルセンターの空間デザインを行うこと、ものづくりの講習会を実施することの3つである。ひとつのブランドコンセプトに向かって、観光施策やものづくりが結びついていくことが極めて重要であると考えている。
- ・コンセプトの“道”というワードには山の辺の道のほか、下ツ道・中ツ道・上ツ道も含まれており、天理市全域の事柄として捉える事ができる。また、桜井市・田原本町とも連携を深めることで広域的なブランド検討が可能となる。
- ・各地域で既に多くの良いものを作っているが、それを更に磨きあげ、

都市圏等でも売れるような商品づくりにご参画いただける事業者を募集し、一緒に検討・製品化する取り組みを進めていきたいと考えている。

- ・本日お話しいただいた事業者のお二人は、まさに本地域での暮らしに憧れている人や移住を検討する人が読むような雑誌をページで取ってこられるような方々。発信力や発想力をお借りしながら、より多くの方々に魅力を感じていただけるような事業展開を検討していきたい。
- ・魅力として大変重要な山の辺の道を中心に、天理の発信・ブランディングを意気込み十分に考えていただき大変良いと思う。てくてく天理やじゃんじゃん市等のイベントとも絡めながら検討を進めていただければ。
- ・南部の街づくりの観点として、桜井市の巻向や田原本町の唐古・鍵を見据えた広いエリアでの議論があった。山の辺の道を中心としながらも、相撲発祥の地である桜井市の相撲神社といった周辺資源も巻き込んだ計画を検討してはどうか。
- ・山の辺の道については、トレイルセンターを中心に「歩く道の駅」というコンセプトをおいているが、今後は一定間隔で人々が憩えるような場所を増やしていけないかと考えている。例えば、既存の無人販売所の横にあまり費用を掛けずにベンチとテーブルを置くだけでも機能の充実を図れる。農業とも連携し、点在していく形で広げていけば、エリア全体の強化につながる。
- ・現状の議論内容を更に取り込んでいただければ、様々なプロジェクトが一気に進むだろう。
- ・地域に若い人がいなく、提案いただいた内容を具体的に実行する人が必要。地域づくりに最も必要な人を育てる「人づくり」も必要ではないか。
- ・トレイルセンターをうまく使って、体験や共感を通して暗黙知を引き出し、他の地域とのコラボや新しい物を生み出して地域に投げ返していく。それを何度も繰り返せばどんどん価値が創造され、結果的に天理のブランディングに繋がるのではないか。また、教育的な観点を取り入れても将来に繋がっていくのでは。
- ・市の教育総合会議でも、地域の魅力をもっと教育に活かすという観点について議論しているところ。朝和では既に黒米づくりなどの取り組みを行っているが、そういった取り組みを拡大させて、子どもたち自身にやりがいを持たせていきたい。是非、教育と言う観点は絡めていきたい。
- ・大阪の地下街でのイベントの際、備品のベンチを専門家の指導のもと作るワークショップを実施した。子供たちが作ったベンチが地下街の無機的な空間を演出し、イベント終了後にはそれをオークション形式で販売。備品を商品として繋げることができた。
- ・トレイルセンターでプレイベントをするにしても、椅子やテーブルといった備品ですら、ストーリーの中に取り込んでいければ良いと考えている。
- ・トレイルセンターのような個性的な場があるだけで、ワークショップのコンテンツをかなり生み出せるので、必ず教育と言う観点は絡めていけると考えている。
- ・指導していただきながら、できれば地元の木を使って子供たちが備品を作り、そ

れを使ったイベントには親や家族が集い、最終的には自分たちが作ったものが商品として販売できれば、子どもにとって非常にやりがいを感じられる機会になるだろう。それが天理で育っていく豊かさの実感と言うことにもつながれば、非常に意義のあるイベントになる。

- ・公民館でも既に色々なワークショップが行われているので、具体的に進めるのであれば現在の公民館の機能の再検討も必要ではないか。地域の方が使う施設でないと賑わいは生まれない。何をやるにしても担い手がない現状を考えれば、今ある機能をどうするかについて検討しなければならないのでは。
- ・一つの事例として、最近、図書館と公民館をドッキングしたまちライブラリーというものを手掛けている。たとえ本棚一つだけでもそれをライブラリーと呼んで、市民から思い出の本や不要になった本を寄付していただき、ゼロの棚に本を埋めていくというもの。イベント等の運営プログラムにお金を使わなくても本があるだけで活性する。トレイルセンターや公民館、その他様々な所にその機能を分散していけば、それらがネットワークしていく。
- ・今いただいたご意見も十分に踏まえながら、どのような形でトレイルセンターを“歩く道の駅”化するのか、また、天理全体を発信していけるようなブランド化をしていけるのかについて、他の協議会を含め、街づくり協議会全体で議論をしていきたいと考えている。

(2) 地区活性化プロジェクトについて

○現在進行中のプロジェクト整理について、事務局より説明。

- ・ふるさと納税については、ようやく返礼サービスの整備ができたところ。協議会でもご議論いただいていたが、南部地区の品も多く入れることができた。今後、更新のタイミングに向け、商工会とも連携し事業者の方々へ制度周知を行う。
- ・食のブランディングプロジェクトについては、東京の日本料理専門家の指導のもと天理駅周辺地区のカフェ・喫茶の皆様が中心となって、先行的にメニュー開発などを進めている。南部地区においても地区の産品を絡めながら進めていきたい。
- ・旅行商品については関東圏からの注目も高く、今後充実を図っていきたい。
- ・旅行商品の件で、長岳寺の大地獄絵御開帳については住職の絵解き説法が非常に興味深いのが、実績が2人というのはあまりにも少ない。広報の仕方等について検証が必要では。今回は特別に公開を延長していただいたようだが、通常的地獄絵の公開時期はたくさんの参拝客がある。
- ・今回は個人旅行の体験オプションとしての設定であったため、奈良への旅行者が様々なプランの中から選択するという形であったことが大きな要因かと思う。
- ・もしお許しを頂けるのであれば、説法をされているところを一部でも動画で撮影させていただきダイジェスト的に配信できれば、良さを分かりやすく伝え、実際に聞いてみたいと思っただけのようなPRができるだろう。今回の分析も含めて今後展開を検討したい。

(3) 報告事項

○第1回 柳本マルシェの開催について事務局より説明

- ・第1回の開催日時、場所等について説明。他地区からの出品についても歓迎されている旨案内。柳本マルシェに係る郡山イオンでのパネル展示について紹介。

【以下、委員の発言要旨】

- ・パネル紹介では、以前に県と地域連携のもとに作成した柳本マップを使っている。地域で思いを込めて作ったものを様々な所で活用していただき、身を結んでいる。

○奈良県立美術館のギャラリー展示について事務局より説明

○県市連携による九条バイパスについて市長より説明

- ・道路関係予算が極めて厳しい中、6月の県議会で県市の連携案件として基本構想の予算を付けていただいた。これにこぎつけられたのは、やはり天理駅周辺と南部地区の協議会でやっていたことに非常に大きな意味があったと考えている。
- ・歴史・文化の中心である南部地区、健康づくりの中心・じゃんじゃん市をしていただくなど産業の発信にもなっている長柄運動公園の一带・長柄の木材団地のエリアは、市北西部エリアとの連携が弱いがために十分に活用されていない。
- ・企業にとっても肝心の郡山JCT、天理東ICへは道が細く、カーブも曲がれないので地区の可能性を引き出していくことができないという障壁があった。
- ・バイパスと併せて自転車道を整備することで、サイクリングを基軸に田原本方面ともつながる構想も可能になってくる。
- ・九条バイパスルートが完成すれば天理駅への利用もしやすくなり、天理駅は車利用、前栽・二階堂駅は徒歩・自転車と言うような生活動線に密着した駅という形で機能を明確にしたうえで整備をしていくことが可能になる。
- ・整備に先立って地積の調査などが始まっており、地域の皆様のご協力もいただき、できるだけ早く着工にもっていきたい。
- ・協議会がきっかけに県と市の連携協定を締結し、その成果が出てきている。これを機に、周遊性のアップ・長柄運動公園の機能強化にも繋げていきたい。

5. 次回の日程と主な協議内容

次回第8回協議会は8月末を予定。後日日程調整を行う。

6. 閉 会 -16:00-